

「NCQ型」数量詞表現

林佩芬

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

0. はじめに

「NCQ型」数量詞表現とは、(1)(2)のように数量詞が名詞句から離れた位置に存在する構文のことである。(Nは名詞、Cは格助詞、Qは数量詞を指す)

- (1) 学生が3人生協へ来た。
(2) 学生が生協で本を3冊買った。

(1)(2)の文は、かつては「3人の学生が生協へ来た、学生が生協で3冊の本を買った」(「QのNC型」数量詞表現)という表現から数量詞が遊離したものとされ、数量詞遊離構文と称されてきた。しかし、三原(1998)が指摘したように、現在では(1)(2)の数量詞は最初から名詞句から離れた位置に生成されるとする考え方が一般的であり、本発表もこの立場をとる。日本語では、「NCQ型」表現と「QのNC型」表現の2つは意味があまり変わらない(知的意味が同じ)とされることが多い。

- (3) 学生が3人いる。 (4) 3人の学生がいる。

(3)(4)に共通するのは、数える対象がどのくらいあるかを示す点にある。しかし、統語制限や場面設定により、「QのNC型」或いは「NCQ型」のどちらか一方しか使えない場合がある。

- (5) *彼らはバスで5台旅行に出かけた。(5台のバスで)

- (6) 【場面：2リットル入りのペットボトルを買ってくるように家族に頼む】

「2リットルのウーロン茶を買ってきてちょうだい。」(*ウーロン茶を2リットル)

本発表では、「NCQ型」の数量詞表現に関する従来の分析の視点とその問題点を提示し、「NCQ型」の数量詞表現の用法について考察する。

1. 統語制約

1.1 格との共起制限

	主語	目的語	着点	副目的語	IO	起点	場所	手段 道具	擬似 相互	真相 互
数量詞遊離	OK	OK	OK	OK	*	*	*	*	OK	*

加藤(2001)

- (7) *先生は学生に5人英語を教えている。
(8) 僕はその講演で外国人に2、3人話かけてみた。

1.2 述部との共起制限

- (9) ??牛肉を 500 g 食べ始める / 食べ続ける。 矢澤 (1985)
- (10) 牛肉をいっぺんに 500g 食べ始めた。 矢澤 (1985)
- cf. (11) この団地には、フランス人が 3 人 いる。(一時的な状態) 大木 (1987)
- (12) *ここにいる女性は 3 人 フランス人だ。(恒久的状態)
- (13) ここにいる女性は 3 人 ともフランス人だ。

2. 意味分析

2.1 「定・不定」

- (14) 何でもいいから 飲み物を一本 買って来て! (* 一本の飲み物)
- (15) *昔ある所に仔豚が 3 匹住んでいました。ある日、悪い狼が その仔豚を 3 匹 食べてしまいました。(その 3 匹の子豚を) 奥津 (1983)
- (16) 【設定: りんご「2 個 300 円」「5 個 600 円」のようにパックされている】
- 客 「リンゴが 5 個 欲しいんですが」
- 店の人 「この 5 個パックのじゃなくて、あっちのひとつ 200 円のを 5 つですか」
- 客 「そうそう。あっちのリンゴを 5 つね」 加藤 (1997)

2.2 「全体・部分」

- (17) a. 200 頁の本 を読んだ。 b. 本を 100 ページ 読んだ。
200 頁の本を 100 頁 読んだ。

2.3 「集合・離散 (分配)」

- (18) 【設定: 青果店に行くと、「リンゴ 2 個 300 円」「リンゴ 5 個 600 円」のようにパックされてリンゴが売られている】
- 客 「5 つのリンゴ がほしいんですが」 加藤 (1997)
- (19) a. 束で、100 本の鉛筆 を買った。(一束 = 100 本)
- b. 束で、鉛筆を 100 本 買った。(一束何本でも構わない) 宇都宮 (2001)
- (20) a. 3 人の学生 が酒を 6 本飲んだ。(飲んだ酒の数は 18 本 6 本)
- b. 学生が 3 人 酒を 6 本飲んだ。(飲んだ酒の数は 18 本) 川添 (1996)

2.4 「一括的・連続的」

- (21) 【場面: 眠れない場合に羊を数える】
- 羊が 1 匹、羊が 2 匹、羊が 3 匹・・・(*1 匹の羊、2 匹の羊、3 匹の羊) 尾谷 (2000)

2.5 「情報量」

- (22) 【場面: 郵便局で切手を買う場合】
- 80 円切手 5 枚 下さい。(?? 5 枚 (の) 80 円切手 下さい。) 高見 (1998)

=>切手の枚数の方がその切手の値段より重要な情報??

3. 「NCQ型」の数量表現

3.1 時間・度数・費用

(23) 毎日、本を2時間読む。 (cf. たくさん読む)

(24) 去年はアメリカを5回尋ねた。 (cf. 頻繁に尋ねた)

(25) ワンピースが10万円かかった。 (cf. 結構かかった)

3.2 差量

3.2.1 比較量

(26) 大腿囲は、腹囲より10センチ小さい。 (一定量)

3.2.2 変化量 (ちぢむ、ちぢめる、のびる、のばす、増える、増やす、減る、減らす)

(27) 今年の授業の数が去年より3つ増えた。 (比較量・内部量化?)

(28) ワンピースの値段を5000円値下げした。 (内部量化)

(29) 先生は授業の時間を20分延長した。 (内部量化)

cf. * (外部量化) 学生の数が3人きた。 * 本の数を3冊買った。

3. 3達成量と同時量

(30) 学生が5人橋を渡る。

解釈1: 学生が1人1人渡って5人に達した。 (達成量)

解釈2: 学生5人が一ぺんに渡る。 (同時量)

矢澤(1985)、北原(1996)

=> cf. (20)

物の数と出来事の数

- ・ 分配的解釈: ある出来事が複数回起こる
- ・ 非分配的解釈: ある出来事が単独で起こる。

(31) * 一度に子供たちの爪を3人切るのは無理だ。

(32) あの先生は子供たちの爪を3人切った。

3.4 同格的意味

「AはBだ」「AがBとして見なされる」「AをBと考える」「AをBにする」などの例文は、「A=B」(同格)が含意されている。宇都宮(1995)は、Bが数量詞である場合に、このような「同格的意味」を意味する数量詞の名詞に対する意味的機能を「付加機能」とし、「量化機能」¹と区別した。宇都宮の数量詞機能の分類は、「全部」「全員」

¹ 宇都宮(1995)は数量詞と名詞の関係から、数量詞の機能を「量化」「付加」「限定」「統合」「分析」の5つに分類している。量化: 演算機能のことであり、ある集合を入力

「すべて」(「全称数量詞」)や「とも」などを含む文を分析するときに問題が生じる。

(33) 茨木師範学校生は全員無事だった。

(34) B棟の住人は8人とも高校の先生だ。

宇都宮も指摘したように、名詞がもつ規定量と数量詞が行う量化が一致する場合は、付加機能でも量化機能でもいい場合があるため、機能を付加と量化に区別している限り、全称数量詞などについては常にパラドクスをかかえてしまう結果になる。

(35) うちのクラスには佐藤さんが2人いる。(2人の佐藤さんがいる)

(36) 小錦が10人入れる部屋。(*10人の小錦が入れる部屋) 川添(1996)

4. おわりに

- ・ 物の数と出来事の数との関係。
- ・ 「集合的・離散的」「一括的・連続的」「分配的・非分配的」の相関関係。

《参考文献》

- 宇都宮裕章(1995)「数量詞の機能と遊離条件」『共立国際文化』第7号 共立女子大学
----- (2001)『数えることば - 数えることをめぐる認識と日本語 -』近代文芸社
- 大木充(1987)「日本語の遊離数量詞の談話機能について」『視聴覚外国語研究』第10号
- 奥津敬一郎(1983)「数量詞移動再論」『東京都立大学人文学部 人文学報』第160号
- 尾谷昌則(2000)「遊離数量詞に反映される認知ストラテジー」『言語科学論集』
- 加藤鉦三(2001)「副詞的要素としての遊離数量詞」『人文科学論集』第35号 信州大学
- 加藤重広(1997)「日本語の連体数量詞と遊離数量詞の分析」『富山大学人文学部紀要』
- 川添愛(1996)「日本語の数量詞の統語的位置と意味との相関」『九州大学言語研究室報告』
- 北原博雄(1996)「連用用法における個体数量詞と内容数量詞」『国語学』186集
- 高見健一(1998)「日本語の数量詞遊離について 機能論的分析【下】」『月刊言語』
- 三原健一(1998)「数量詞連結構文と『結果』の含意【上】」『月刊言語』第27巻第6号
- 矢澤真人(1985)「連用修飾成分の位置に出現する数量詞について」『学習院女子短期大学
大学紀要』 学習院女子短期大学

して別の集合を作り出す。例：3人の学生がいる。文句を2つ並べる。付加：名詞に同格的な意味を加える。例：年齢15歳。当選ラインは75 80万票とみられている。